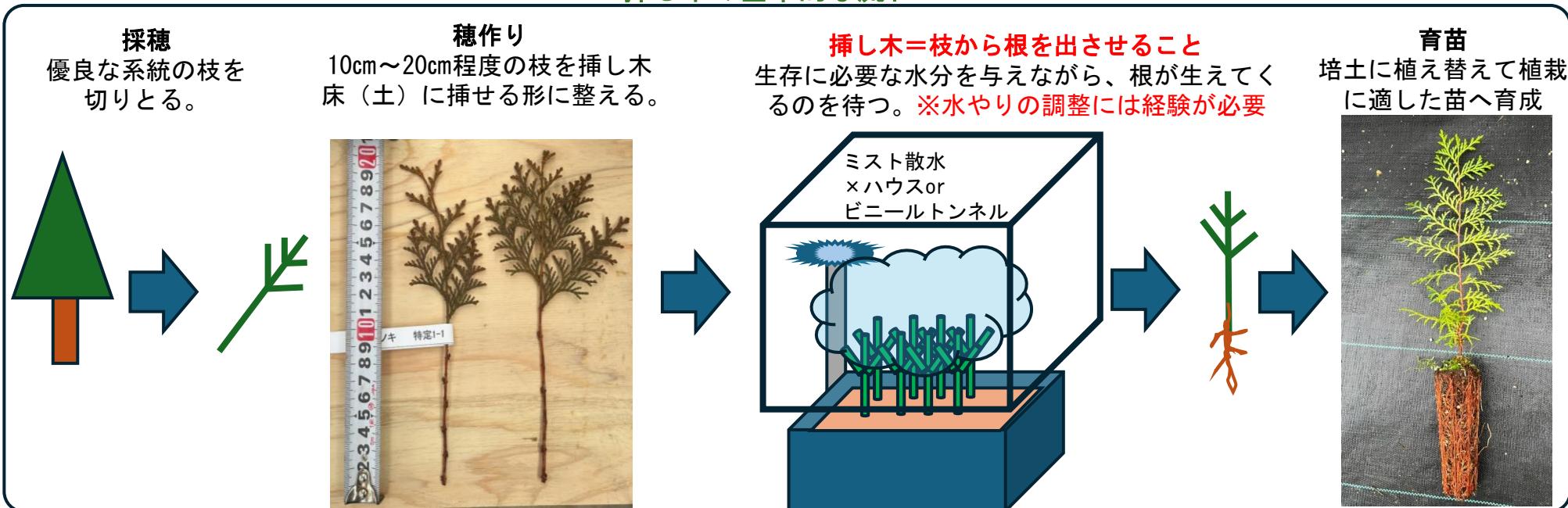


はじめに

- ・挿し木では、苗木に優良系統の優れた形質を遺伝的にそのまま引き継がせることができる。
- ・少花粉品種や特定母樹の挿し木苗を作れば、付加価値の高い苗木の生産や林業が可能になると期待される。

挿し木の基本的な流れ



課題：挿し木の水分管理は難しい

- ・挿し木では、水分管理（水やり）が難しく、水分が少なすぎても多すぎても発根率が低下する。
- ・そのため、適度に乾いてからたっぷりと水を与えるのが最適な方法となる。
- ・しかし、「**適度に乾いたら**」を判断するのは難しい。

土壤水分を適湿に管理した場合
・生存本数が多く、発根もよい



乾燥気味に管理した場合
・生存本数が減少するが発根は良い



過湿に管理した場合
・生存本数は多いが発根は悪い

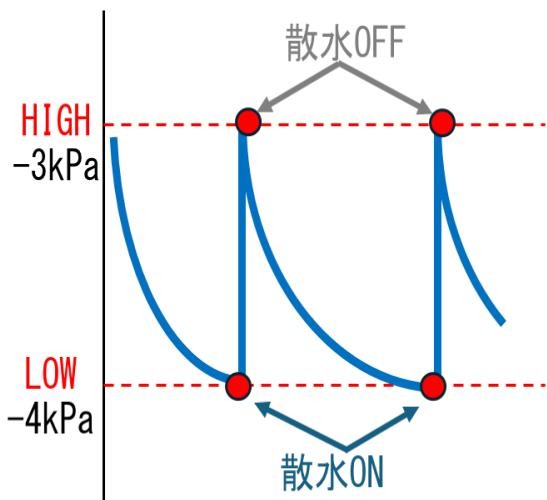
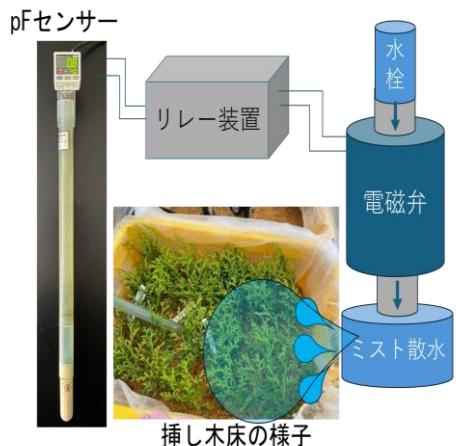


現在取組んでいる技術開発

pFセンサーを用いた自動灌水装置の作成

- ・土壤の水分をセンシングし、**一定値まで乾いたら**自動で水やりを行う装置を作成。

- ・pFセンサーで任意のLOWとHIGHの値を設定。
- ・LOWの値になると散水が始まり、HIGHの値となると散水が停止する



再現しやすい挿し木環境の構築方法（屋外）

- ・ホームセンターで買えるもので、挿し木に適した環境を構築する方法を考案。

- ・収穫用コンテナに不織布を敷き、鹿沼土細粒を詰め、深さ20cm程度の挿し木床を作成。
- ・ダンポールの骨組みの上に透明なビニールシートをかぶせ、トンネルを作成し、遮光率50%の寒冷紗で被陰。

